

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

- 1. 理念の共有
- 2. 地域との支えあい
- 3. 理念を実践するための制度の理解と活用
- 4. 理念を実践するための体制
- 5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

- 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
- 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

- 1. 一人ひとりの把握
- 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
- 3. 多機能性を活かした柔軟な支援
- 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

- 1. その人らしい暮らしの支援
- 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	なごみの家
(ユニット名)	西棟
記入者(管理者) 氏名	遠藤 淳二
評価完了日	20 年 8 月 15 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ間で話し合い事業所の理念をベースに各棟で作り上げている。	○ 各年度ごとにスタッフ間で見直しをしながらその都度あったものになっている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々取り組んでいる。常に共有しながら行っている。又、職員対応時のオリエンテーションの際には必ず伝え理解していただいている。	○ 見えるところに掲示し、常に理解できるようにしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関先に掲示し、面会時などどなたでも見れるようにしている。	○ 地域の理解を得るためにも町内会、地域の集まりなどに参加し、事業所を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立ち寄っていただけるような日常的なつきあいにまではなっていない。	○ 挨拶や立ち話程度はしているもののまだまだ努力が必要。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。	○ 行事等に参加への声掛けをしている。

グループホームなごみの家 西棟 自己評価表

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いは行っているが取り組みまでは至っていない。	○	今後取り組めるようスタッフ間で努力していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義を理解し評価を活かし改善点があれば、改善するよう努力している。	○	自己評価はスタッフ全員と行き、質の向上とスタッフの意識を高めるよう努力している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価、自己評価などその都度全体化し、意見を頂いている。	○	参加者からの発言は少ないものの以前よりは発言が増えてきているので今後も関わっていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターは近いこともあり相談することもある。	○	相談事で困ったことは包括に相談することもある。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は学習しているが全スタッフにまでは行き届いていない。	○	今後も学習会などを開き、意識を高めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あまり意識を高く持っていない。	○	会議などを利用し、今後学ぶ機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が行っている。入居前の聴き取り、退去後の関わりを大切にしている。</p>	○	<p>各スタッフも意識を持ち、管理者任せにならないように努めていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各スタッフは聴き取りしているが全体化にならないことがある。</p>	○	<p>その場の対応にならないよう意識して全体化出来るよう努める。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>必要に応じて面会時や電話などで報告している。</p>	○	<p>状況の伝え方をきちんと理解し対応できるよう努力したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談の窓口を設けたり、面会時などに家族の想いを聞けるような声かけをしている。内容についてはカルテや会議で全体化し、改善するよう努力している。</p>	○	<p>運営推進会議でも聴き取りをし、反映させている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個人面談などで意見を聞いている。</p>	○	<p>業務中の聴き取りは支障があるので、面談の数を増やすなど検討していきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>出来る限り調整している。</p>	○	<p>今後の重度化も含め、業務の改善を図っていききたい。</p>

グループホームなごみの家 西棟 自己評価表

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフのストレス、意欲を考え必要に応じ異動を検討している。	○	入居者、ご家族の負担を軽減出来るよう努力している。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を可能な限り外部や自社研修などに参加するよう努めている。	○	管理者はバイザーとして関わる努力はしているが、全職員の対応までには至らない。業務改善なども含め今後も努力していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はGH協議会の研修や外部研修を通し、スタッフにあわせ、なるべく他者との交流を図ったり、スキルアップ出来るよう努力している。管理者の打ち合わせに参加したり、スタッフが外部へ出る機会を多くし、質の向上に努めている。	○	スタッフが外部での交流の必要性を理解し参加できるように努めたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は日々の聴き取りをし、コミュニケーションを図りながら努力している。	○	休憩時間の活用等まだまだ検討しなければならないことが多い。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は1人1人の特徴、性格を理解・把握し、各自が向上心をもって働けるよう努めている。	○	更に働きやすい環境を作れるよう日々努力をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごす努力はしているが、業務優先になってしまうときもある。	○ スタッフが気持ちに余裕を持ち、業務から入居者個々にあわせて動けるよう努力していきたい。

グループホームなごみの家 西棟 自己評価表

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や誕生会の行事への参加などを通して共に過ごし支援できるように努めている。	○	スタッフだけで検討せず、家族も含め相談をしながら何でも決める努力はしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族面会時に良い報告を多くする事で、本人の様子を伝え、良い関係が続くよう努めている。	○	なるべくご家族に近況報告をするように努め、現状を理解していただけるような支援を行っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの関係はなるべく継続できるよう心がけている。	○	ホーム内での関わりは持っているが、外部での関係がとぎれないよう努力していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないよう努めている。	○	関係性を理解しながら1人1人にあった関わり、支え合いが出来るよう努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行っている。	○	退去された方のご家族からの相談や報告はある物のそれ以上の関わりには至っていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	上手く表現できる方が少ないので何が希望かを常に模索するよう努力している。	○	現場の中で各スタッフで進めていくことが理想だが、まずは、シートなどを利用し各入居者の思いを形にしながらかスタッフ間の意識改革を行っていききたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントにて全体化している。	○	入居時にとどまらず、その都度経過を把握していくよう努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方にあわせた過ごし方が出来るよう努めている。	○	その場限りにならず生活全体を見た上での総合的な把握が出来るよう努力したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	なるべく介護計画を家族、スタッフに確認し1人の目にならないよう努力している。	○	家族の面会時などを利用し、話し合える場を持ちたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に合わせた期間で見直しを行うよう努めている。	○	作成についてはもう少しスムーズに行えるように努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ細かく記録できるように心がけている。	○	ケース記録については、何が大事、何を伝えたいのかを再確認し、もう少しスマートになるよう心がけたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署とは必要に応じ協力していただけるよう努めている。	○	今後、民生委員等近所でのつきあいが増えることを検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣接の通所リハビリには以前より参加されていた入居者が参加出来るように協力していただいている。	○	あまり多くの支援を活用できていないので今後活用できるような取り組みを検討していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ協力している。	○	家族との関わりの中で分からないことを相談しながら関わっている。

グループホームなごみの家 西棟 自己評価表

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意思を尊重しかかりつけ医を決定している。	○	家族対応の入居者の受診の際は必要に応じ口答だけでなく、書面にてDRに情報を提供し適切な対応をしていただけるよう心がけるようにしている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ専門医を紹介している。	○	スタッフが気軽に相談できる専門医の確保を検討している。
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的な面会や電話にて状況を把握し早期退院に向けた支援をしている。	○	入院の予定になりそうな時は事前に情報を交換し安心して治療が出来るよう心がけている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から相談を受けている。	○	高齢者の特徴を踏まえ重度化に対する家族への説明がもう少し上手く出来るよう努力していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	連携体制は整っている。	○	まだまだスタッフの知識、技術の獲得と各専門職との連携が必要と感じる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来る限り環境を変えず生活出来るよう支援している。	○	リロケーションダメージを理解し、スタッフが関わっていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	意識して行っている。	○	記録物の管理についてももう少し整理していくよう努力する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	可能な限り本人に決めていただけるよう支援している。	○	上手く表せない方には何が良いのかその方側にたった目線、意識で確認しながら行っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人にあわせた生活になるよう心がけている。	○	もう少し、入居者本位で関わられるよう努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	美容室は本人の希望に添って行えるよう努力している。	○	おしゃれ、身だしなみについては、その方任せになっていることがある。もう少し関わりを持ち、ハリのある生活に慣れることが望まれる。

グループホームなごみの家 西棟 自己評価表

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、片付けなど一緒に行っている。	○	楽しんで行える物になるよう関わり方に気をつけていきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べたいものを聴いたり、個々の好みに対応するよう努力している。	○	聴き取りだけで実行に移されないことがあるので、実行できるよう心がける。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に合わせて支援している。	○	おむつを使用しないことのメリット、デメリットを踏まえ、排泄についてきちんと理解した対応を努めている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々に合わせて支援している。	○	楽しみ、リラックス効果を理解した上で更に安全な入浴になるようスタッフの意識を高めたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々にあった睡眠状態を把握し支援している。	○	夜間安心してユックリ睡眠できるよう、日中の支援をもう少し頑張りたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	季節感を味わうドライブや花見や、外出好きの方への支援をしている。	○	ストレスをためない支援をするための知識、技術を理解し実行するよう努力している。

グループホームなごみの家 西棟 自己評価表

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	希望がある方は本人に管理して貰っている。	○	家計簿を使用し、金銭管理のお手伝いをしている。
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	散歩など個別に対応している。	○	なかなか外に出る機会は少ないが、対応に気をつけ少しでも楽しんで外の空気に触れられるよう努めていきたい。
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	要望はあっても物理的、環境的になかなか難しいところがあり実行には至っていない。	○	なるべく要望に応えられるよう日々、1つずつ努力していきたい。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）</p>	希望があれば実施できるよう努めている。	○	希望があればなるべく出来るところを活かしながら、出来ないところをサポートし、関わりが継続できるよう支援している。
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）</p>	気軽に訪問していただけるよう面会など心がけている。	○	面会時には居室にてゆっくり過ごしていただけるようお茶の準備や各家族にあわせたもてなしをしている。
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	常に意識して取り組んでいる。	○	スタッフ全員が正しく制度を理解しているかはさだかでないので今後も定期的に学習をしていきたい。

グループホームなごみの家 西棟 自己評価表


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○	夜間帯は防犯も兼ねて鍵はかけている。鍵をかけることのリスクをきちんと理解し支援している。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに考慮している。	○	入居者個々がどこで何をしているのか安全にしているのか、全体をきちんと把握出来るよう努力している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	置き場所を検討したり、入居者が理解しながら生活出来るよう努力している。	○	物品の整理はもう少しきちんと行いたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルに基づき取り組んでいる。	○	常に危険があることを意識して生活支援できるよう努める。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが定期的に訓練は行っていない。	○	実際に発生したときに対応できるかが不安なため、定期的に学習会などで意識を高めていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スタッフ間では常に話し合いはしている。	○	近隣の協力が得られるよう努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居申込み時、入居時、運営推進会議、又は各面会時などでも説明している。	○	なるべく自然な形でリスクに対して対応する努力をしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフ間、管理者、看護師、医療機関へと情報を提供・相談し、速やかに対応する努力をしている。	○	判断基準を間違わないように定期的に学習会を開催していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別で薬を管理し、各食後にあわせて服薬支援している。	○	スタッフで役割を決め責任持って支援している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬での調整を行っている。	○	運動、食事などで改善できることは薬に頼らない努力をしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一部の入居者さんを除いては、就寝前の声かけ支援が来ている。	○	毎食後支援できるよう努力している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量に注意しなければならない疾患の方もいらっしゃるのので量、味、等に注意して支援している。	○	カロリー制限や水分制限のある方はさらに医師と連携を取っている。

グループホームなごみの家 西棟 自己評価表

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルがあり予防を徹底している。	○	今後も徹底した予防で感染を防いでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒は毎日行っている。	○	管理者は安全で美味しい物を提供するため、必要に応じ、生ものを季節で制限したり、冷蔵庫の確認をしたりしている。
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチやテーブルを置き気軽に立ち寄り休んでいただけるよう工夫している。	○	花を植えて明るい雰囲気にしたり今後も努力していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓際や廊下、ドアに鉢や飾り物を置き、家具や備品も家庭的な素材や色合いの物でそろえ工夫している。	○	トイレや浴室など分かりづらい場所を分かりやすくする努力はしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの配置、和室を活用したり、個別でくつろぐ空間を確保している。	○	もう少し、セミ・パブリックなスペースを増やせると全員が安心して他者の気配を感じながらくつろげると感じる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	ダンスや仏壇など家族と相談し設置している。	○	まだ心地よい空間になっていない方もいるので、 家族と協力しながら進めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気、温度、湿度をチェックしている。	○	冬期は床暖房の影響もあり、居室が乾燥するた め、特に夜間帯には注意し、洗濯物やぬれタオル を干したり対応している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個々に合わせ、ベッド柵、手すりなどで対応して いる。	○	個々で使用の仕方が違うので検討しながら 対応している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	出来ること、出来ないことを見極めるスタッフの 力量をつける努力をしている。	○	アセスメントをきちんと行い、スタッフの気づき をきちんと表現できるよう進めていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	各居室の外に花を植え、楽しんでもらえる工夫を している。	○	気軽に外に出たくなるような環境作りをすすめて いきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)